

イベント報告

鳥取県日野町のリノベーションLab.における研究成果報告会

当研究所の報告テーマ：「中山間地域における高齢者の「食」と「福祉」のつながり～町民への調査からの一考察～」

報告者：玉木志穂・丸山優樹（食料領域 研究員）

2023年11月2日に鳥取県日野町で開催された「日野町リノベーションLab.（ラボ）研究成果報告会」にて、玉木志穂研究員と丸山優樹研究員が中山間地域の食料品アクセス問題に関連する研究成果を報告しました。

日野町リノベーションLab.は、中山間地域が抱える諸課題の解決に向けて、産官学が連携をはかりながら研究する拠点として昨年3月に設立されたものです。当研究所も同拠点を利用しながら、中山間地域が抱える食料品アクセス問題の解決に向けた調査研究を続けてきました。

研究成果報告会には、近隣自治体の関係者や町民ら約30人が参加し、当研究所からは、日野町民を対象に実施したアンケート調査に基づき、高齢者の食料品摂取状況や移動販売車に対する利用者評価の結果について報告を行いました。その中で指摘されたのが、高齢男性の単身世帯で野菜や果物などの摂取頻度が低く、一部の食品の摂取に偏った食生活を送っている可能性です。また、移動販売車については、利用者が食料品供給機能を重要視することにくわえ、販売員との会話を求めて利用していることが

報告されました。そして、その傾向は後期高齢者になるほど強まることが明らかとなり、移動販売車が食料品を供給するだけでなく「福祉」の観点からも重要な役割を担っていることが考えられます。

今後も鳥取県日野町との研究連携を強化し、食料品供給に付随する「福祉」の機能について研究の進展をはかるとともに、それらの機能の効果的な提供方法についても議論を深め、食料品摂取に課題がある消費者の健康増進に寄与していきます。



学会賞受賞の紹介

令和五年度日本農業経営学会 学会誌賞

受賞タイトル：「農業法人によるESG関連活動と経営発展」

受賞者：吉田真悟（農業・農村領域 研究員）



本研究は、農業法人における環境・社会・ガバナンスに関する活動（ESG関連活動）の重要性を示すことを目的として、日本農業法人協会会員向けのアンケート分析を行っております。本研究により、第一に、農

業法人のESG関連活動への積極性には法人間や営農類型間で大きなばらつきがあることが示されました。第二に、ESG関連活動は法人の規模拡大の展望や後継候補者の確保と密接に関連していることが明

らかになりました。第三に、ESG関連活動に積極的な法人ほど、社会経済環境の変化への対応能力（ダイナミック・ケイパビリティ）が高いことも示されました。以上の結果は、SDGsなど持続可能性への配慮という社会的課題に対して、農業法人は高い組織能力を備えてこれに対処することが求められており、それを成し遂げることが農業法人の継続的な発展につながることを示しています。

こうした内容を踏まえ、本研究は多くの新規的知見を有しており学術的にも社会的にも価値の高い論文であるとして、2023（令和5）年9月9日に、本論文の著者に対して学会誌賞が授与されました。